

### 3 コメ

#### (1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22年度

**生産量** 前年度比 前月比

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

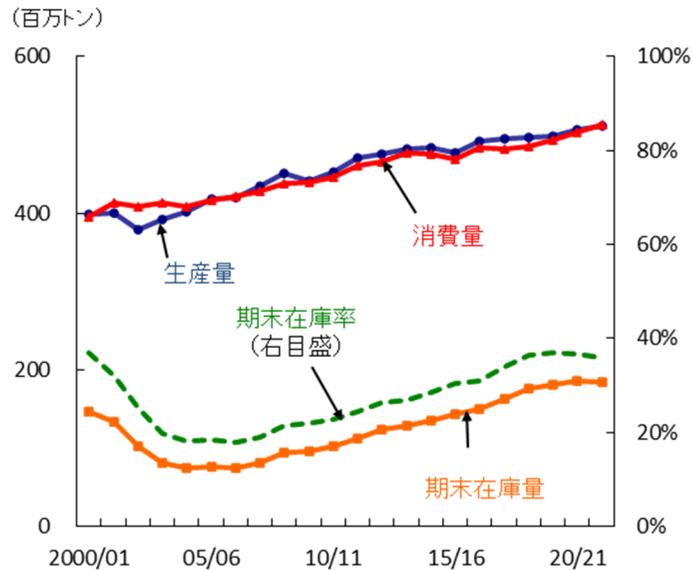
**消費量** 前年度比 前月比

・パキスタン等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比

・インド等で上方修正されたことから前月から上方修正された。史上最高の見込み

**期末在庫量** 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」（2021.10.12）をもとに農林水産省にて作成

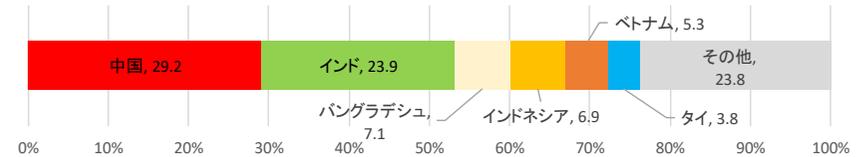
### ◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

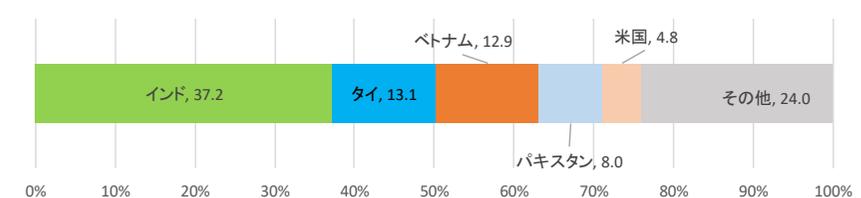
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	498.3	506.4	510.7	2.8	0.8
消 費 量	493.2	503.0	512.3	0.2	1.9
輸 出 量	43.4	49.1	49.7	1.2	1.3
輸 入 量	42.3	46.4	46.8	0.9	0.8
期末在庫量	181.8	185.2	183.6	1.8	▲ 0.9
期末在庫率	36.9%	36.8%	35.8%	0.3	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 October 2021)

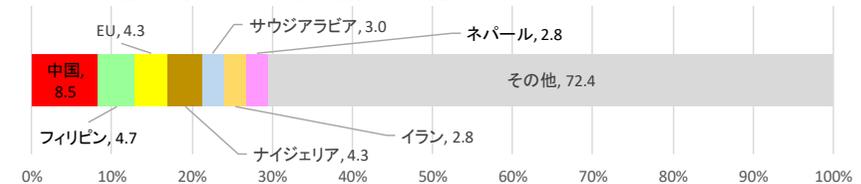
#### ○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(510.7百万トン)(単位：%)



#### ○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(49.7百万トン)



#### ○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(46.8百万トン)



## (2) 国別のコメの需給動向

### < 米国 > 中米における米国産コメのシェアが低下

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比16.3%減少の6.1百万トンの見込み。中・短粒種の実産量はコメ全体の約25%を占める。同「Crop Progress」(2021.10.18)によれば、10月17日時点の主要生産6州の収穫進捗率は92%で過去5年間平均(91%)より1ポイント進んでいる。なお、中・短粒種の主産地であるカリフォルニア州の収穫進捗率は95%で過去5年間平均(73%)より22ポイント進んでいる。同「Crop Production」(2021.10.12)によれば、単収は前年度を上回り、特にカリフォルニア州とミズーリ州で単収が史上最高となる見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、消費量は前月予測から若干下方修正され、対前年度比4.3%減の4.6百万トンの見込み。輸出量は前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%減の2.9百万トンの見込み。輸入量は、コンテナ不足や海上運賃の高騰によると見られるタイ産香米の輸入量減少により、前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比5.6%増の1.1百万トンの見通し。

同「Grain:World Markets and Trade」(2021.10.12)によれば、中米(コスタ・リカ、ホンジュラス、エル・サルバドル、グアテマラ、ニカラグラ及びパナマ)は、南北アメリカ大陸における重要な輸入地域であり、米国は中米諸国と自由貿易協定を締結しているが、同地域における米国のシェアが低下している。一方、この10年で南米の輸出競争国(ブラジル、パラグアイ、ウルグアイ及びアルゼンチン)が、コメの輸出価格や地理的な優位性から輸出を拡大しており、2020年には著しく増加した。コメの実産量が減少している米国が、今後も中米で過半数のシェアを維持出来るかどうかの正念場である。

同「Rice Outlook」(2021.10.14)によれば、10月5日までの週の地中海向けカリフォルニア米(1等、砕米4%混入、国内精米)の価格は、先月からの変更はなく、2009年6月以来の高値である1,125ドル/トン。10月5日までの週のイラク向け長粒種(2等、砕米4%混入)の価格については、7月20日までの週からの変更はなく600ドル/トンとなっている(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

## コメー米国

主に中・短粒種はカリフォルニア州、長粒種はミシシッピ川沿いで栽培  
全米のコメ生産に占めるカリフォルニア州の実産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	5.9	7.2	6.1	-	▲ 16.3
消 費 量	4.6	4.9	4.6	▲ 0.0	▲ 4.3
輸 出 量	3.0	3.0	2.9	-	▲ 3.0
輸 入 量	1.2	1.1	1.1	▲ 0.1	5.6
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	▲ 0.0	▲ 23.7
期末在庫率	12.0%	17.8%	14.1%	▲ 0.3	▲ 3.7

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	-	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.55	-	0.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

### 写真:アーカンソー州でのコメの収穫風景



10月2日撮影のアーカンソー州デルタでの収穫風景。この地域では温暖で乾燥した天候が続き、コメの収穫作業が進んでいる。

## < インド > 収穫面積と単収の上方修正により生産量は史上最高

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、収穫面積及び単収が前月予測からそれぞれ1%程度上方修正されたことにより、前月予測から3.0百万トン上方修正され、対前年度比2.2%増の125.0百万トンで史上最高の見込み。

同「World Agricultural Production」(2021.10.12)によれば、2021年のカリフ作の作付は、南東部のモンスーンの到来遅れのため例年より一か月程度遅れたものの、その後改善され、9月上旬には前年を若干上回るとともに、過去5か年を5%上回る進捗率となった。カリフ作の50%の生産量を占める北部の灌漑地域では、モンスーンの遅れの影響は平年以下であった。9月の大雨は、インドの降雨量不足を補い、南部における作付を促した。その後、コメ生産全体の90%を占めるカリフ作の作付が9月中旬までに完了し、作付が早かったコメについては収穫が始まっている。残りの10%を占めるラビ作は11月に作付が開始され、来年3月中旬に収穫される見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は前月予測からの変更はなく、対前年度比2.3%増の105.0百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸出量は、生産量の上方修正や豊富な在庫により前月予測から1.5百万トン上方修正され、対前年度比7.5%減の18.5百万トンの見込みも史上2番目の高水準。2020/21年度の輸出量は、バングラデシュ、ネパール、中東及びサブサハラアフリカへの輸出の増加により1.0百万トン上方修正され20.0百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の期末在庫量は、生産量の上方修正により0.5百万トン上方修正され、対前年度比4.5%増の35.0百万トンで史上最高の見込み。

USDA「Rice Outlook」(2021.10.14)によれば、インド産米(碎米5%混入)の10月5日までの週の価格は9月7日までの週より15ドル下落し355ドル/トン(P18)の「長粒種のFOB価格の推移」を参照。

## コメーインド

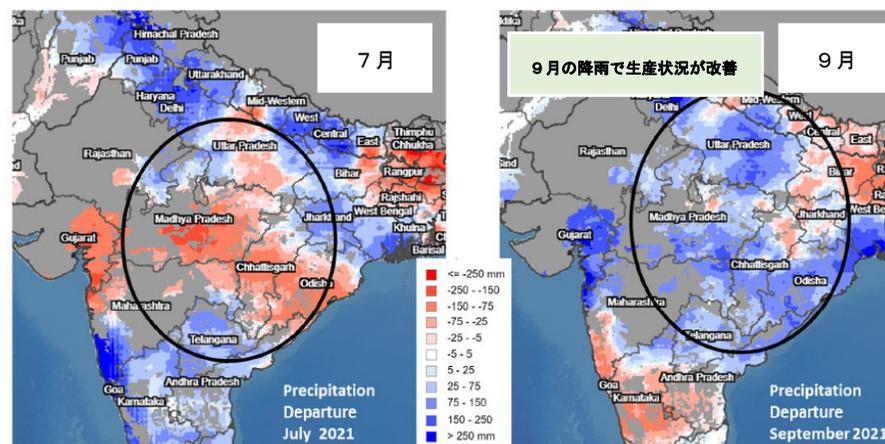
雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	118.9	122.3	125.0 (123.8)	3.0	2.2	
消費量	102.0	102.7	105.0 (107.6)	-	2.3	
輸出量	12.5	20.0	18.5 (15.6)	1.5	▲ 7.5	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	33.9	33.5	35.0 (25.7)	0.5	4.5	
期末在庫率	29.6%	27.3%	28.3% (20.8%)	0.1	1.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	43.66	45.00	45.50 (44.50)	0.50	1.1	
単収(もみt/ha)	4.08	4.08	4.12 (2.78)	0.05	1.0	

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)(単収は精米t/ha)

図: インドの7月と9月の降水量の分布



USDA Foreign Agricultural Service  
U.S. DEPARTMENT OF AGRICULTURE

Sources: UC Santa Barbara, CHIRPS;  
IFPRI, SPAM Rice Mask

資料: USDA「World Agricultural Production」(2021.10.12)

## < 中国 > インドからの輸入量が前月予測から拡大

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

国家糧油情報センター（2021.10.8）等によれば、9月は全国の大部分で農産地の天候条件が良好で、全体的に一期作稲の登熟・成熟・収穫・乾燥に有利であった。9月末に新穀早稲の農家売り渡しが終了し、今年は市場価格が高かったため、早稲インディカ粳の政府による最低価格買付は実施されなかった。

中国中央气象台（2021.10.8）によれば、9月30日から10月6日の間に、江蘇、安徽、浙江、福建、江西、湖南、広西、広東等地区的二期作晩稲の大部分は出穂から乳熟期に入っており、全国二期作晩稲の一、二類の苗の割合は12%と86%で、前年同期（11%と86%）比、一類は1ポイント向上し、二類は前年並みであった。また、湖北、安徽、江蘇、浙江等地区的一期作稲の大部分は出穂から乳熟期に入っており、一部は成熟期に入っている。吉林、黒龍江、遼寧、内モンゴル、四川、貴州、雲南等地区的一期作稲は成熟・収穫期に入っている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は0.6百万トン下方修正され、対前年度比3.0%増の155.1百万トンで史上最高の見込み。

USDAによれば、2021/22年度の輸出量は前月予測からの変更はなく、前年度比8.1%増の2.4百万トンの見込み。2021/22年度の輸入量は、インドからの輸入の増加により0.4百万トン上方修正され、対前年度比11.1%減の4.0百万トンの見込み。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報」（2021年8月）によれば、8月に全国の食糧備蓄倉庫が積極的に市場で買付したため、早稲インディカ粳の価格が大幅に上昇し、中晩稲インディカ粳とジャポニカ粳市場の売買が徐々に新穀に移行する中、備蓄倉庫と加工業者が旧穀の在庫調整を加速させたため、晩稲インディカ粳とジャポニカ粳の価格は小幅に下落した。コメの末端需要は依然として低迷しており、コメの精米業者が在庫の消化を早めるために値下げをしたことでコメの価格は下落した。2021年8月の全国平均品種別米卸売価格はそれぞれ早稲インディカ米 3,820 元/トン、晩稲インディカ米 4,200 元/トン、一期作ジャポニカ米 3,980 元/トンになっている。

※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さく弱まっている苗

## コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	146.7	148.3	149.0 (150.4)	-	0.5
消費量	145.2	150.6	155.1 (151.4)	▲ 0.6	3.0
輸出量	2.6	2.2	2.4 (2.5)	-	8.1
輸入量	2.6	4.5	4.0 (3.4)	0.4	▲ 11.1
期末在庫量	116.5	116.5	112.0 (109.2)	1.0	▲ 3.9
期末在庫率	78.8%	76.2%	71.1% (70.9%)	0.9	▲ 5.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	30.00 (30.11)	-	▲ 0.3
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.10 (5.00)	-	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

IGC「Grain Market Report」(23 September 2021) (単収は精米t/ha)

## 写真：黒龍江省水稻圃場の収穫風景



降雨により収穫が例年より1週間程度遅れ9月26日頃から開始されたものの、台風などの災害がなかったことや収穫が遅れたことで水稻の生長周期が長くなり、例年より収穫量が増えた模様。

## < タイ > タイ商務省の見通しは 2020/21 年度に 6 百万トン を輸出

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、前月予測から 0.1 百万トン上方修正され、18.9 百万トンと対前年度比 6.8% の増加の見込み。一方、2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.4% 増の 19.5 百万トンの見込み。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.10.18)によれば、タイでは台風 Kompasu の恩恵を受けて貯水池の水量が改善し、成熟していない稲の生育を助けた。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.4% 増の 13.0 百万トンの見込み。2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 16.1% 増の 6.5 百万トンとなることでベトナムの輸出量(6.4 百万トン)を上回り、インドに次ぐ世界第 2 位のコメ輸出国となる見通し。

タイ商務省は、2021 年 1～9 月に合計 3.7 百万トンの米を輸出し、10～12 月には毎月 70 万トンを超える米の輸出を見込んでいる。そのため、2021 年に 6 百万トン輸出するという目標を達成出来ると見込んでいる。2021/22 年度の期末在庫量は、前月予測から若干上方修正され、対前年度比 4.2% 増の 4.9 百万トンの見込み。

タイ米輸出業協会によれば、2021 年 1 月から 8 月までの輸出量は、前年同期比 24.3% 減少の 317.9 万トン。輸出先国は、南アフリカ(46.3 万トン)、米国(33.6 万トン)、中国(26.3 万トン)の順となっている。

USDA 「Rice Outlook」(2021.10.14)によれば、10 月 4 日までの週のタイ産米(長粒、2 等丸米)の輸出価格は、中国からのうるち精米及びもち米の引き合いや西アフリカからの白米やパーボイルド米への新規需要があったにも拘わらず、バーツ安により 9 月 6 日までの週より 4 ドル/トン下落し 397 ドル/トンとなっている。

## コメ・タイ

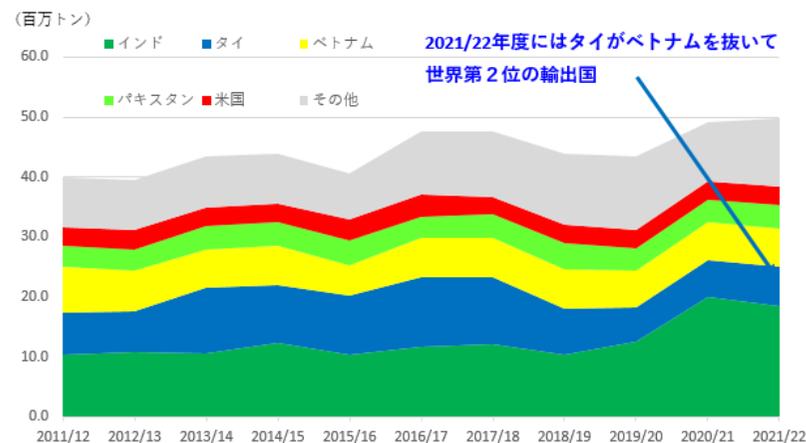
夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	17.7	18.9	19.5 (19.5)	-	3.4	
消費量	12.3	12.7	13.0 (11.9)	-	2.4	
輸出量	5.7	5.6	6.5 (7.7)	-	16.1	
輸入量	0.3	0.2	0.2 (0.3)	-	-	
期末在庫量	4.0	4.7	4.9 (7.1)	0.0	4.2	
期末在庫率	22.1%	25.9%	25.3% (36.4%)	0.2	▲ 0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.51	10.50 (10.53)	-	▲ 0.1	
単収(もみt/ha)	2.70	2.72	2.81 (1.85)	-	3.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
IGC 「Grain Market Report」(23 September 2021) (単収は精米t/ha)

図：世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」(2021.10.12)をもとに農林水産省にて作成

## < ベトナム > 船積み契約や政府買入等によりコメ価格が上昇

【生育・生産動向】USDAによれば、2020/21年度(2021年1月～2021年12月)の生産量は、前月予測からの変更はなく対前年度比1.1%増の27.4百万トンの見込み。2021/22年度(2022年1月～2022年12月)の生産量は前月からの変更はなく、対前年度比1.2%減少の27.1百万トンの見込み。夏秋作コメの収穫は事実上終了したと見られる。

ベトナム農業・農村開発省によれば、2021年の生産量のうち冬春作は20.6百万トン、夏秋作は9.3百万トンになる見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、価格の上昇や船積みの遅れにより、前月予測から0.1百万トン下方修正され、前年度並みの6.2百万トンの見込み。また2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.2%増の6.4百万トンの見込み。2020/21年度の輸入量は、ベトナム産より安価なインド産への強い引き合いにより前月予測から0.1百万トン上方修正され、前年度の4倍を超える1.3百万トンの見込み。また、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比60%減の0.5百万トンの見込み。2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比4.4%減の2.2百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2021年1月から9月の間のコメの輸出量は457.3百万トンとなり、上位をフィリピン(182.6万トン)、中国(84.6万トン)、ガーナ(44.2万トン)が占めている。

USDA「Rice Outlook」(2021.10.12)によれば、ベトナム産米(長粒種、5%碎米混入)の10月5日までの週の価格は、キューバ、フィリピン及びマレーシア向け輸出船積み契約や新型コロナウイルス感染症に影響を受けた地域への配給に伴う国家備蓄の積み増しのための政府買入の継続により、9月7日までの週より30ドル/トン上昇し、435ドル/トンとなった。

ベトナム税関総局によれば、ジャポニカ米の2021年1月～8月の輸出量は、対前年同期比52.4%減の9.4万トンになっている。

## コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.4	27.1 (28.3)	-	▲ 1.2
消費量	21.3	21.4	21.3 (22.6)	-	▲ 0.5
輸出量	6.2	6.2	6.4 (6.4)	-	▲ 3.2
輸入量	0.4	1.3	0.5 (0.6)	-	▲ 60.0
期末在庫量	1.2	2.3	2.2 (3.3)	▲ 0.1	▲ 4.4
期末在庫率	4.3%	8.2%	7.8% (11.4%)	▲ 0.2	▲ 0.4

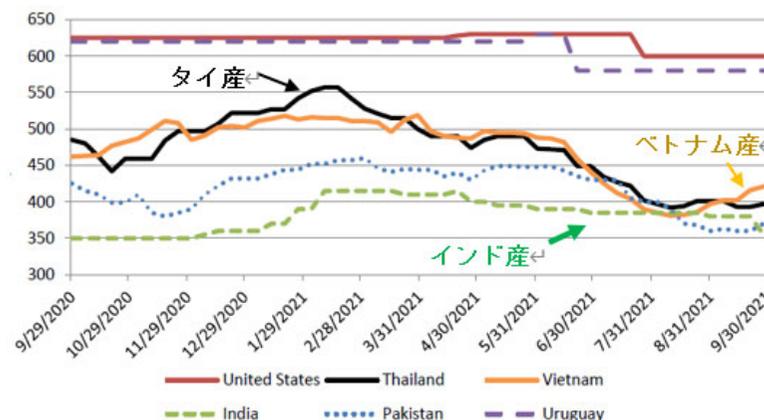
(参考)

収穫面積(百万ha)	7.38	7.36	7.35 (7.45)	-	▲ 0.1
単収(もみt/ha)	5.88	5.96	5.90 (3.80)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

IGC「Grain Market Report」(23 September 2021) (単収は精米t/ha)

図：長粒種のFOB価格の推移(インド産と他国産の価格差が拡大)



資料：USDA「Grain：World Markets and Trade」(2021.10.12)

## II 油糧種子 大豆

### (1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

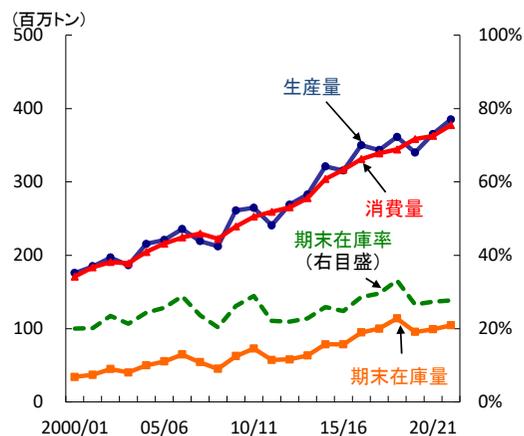
＜米国農務省（USDA）の見通し＞ 2021/22 年度

**生産量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑  
 ・アルゼンチン等で下方修正も、米国で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓  
 ・アルゼンチン等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓  
 ・インド等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」（2021.10.12）をもとに農林水産省で作成

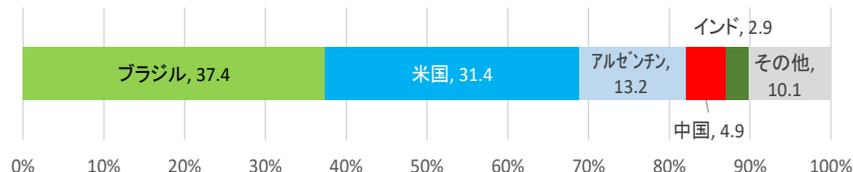
## ◎世界の大豆需給

(単位：百万トン)

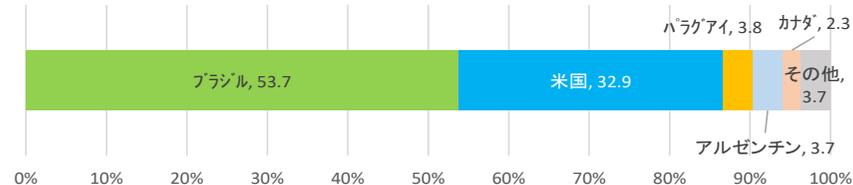
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	339.9	365.3	385.1	0.7	5.4
消費量	358.4	362.6	377.3	▲ 1.1	4.1
うち搾油用	312.5	315.6	328.4	▲ 1.0	4.0
輸出量	165.1	164.9	173.1	▲ 0.1	5.0
輸入量	165.0	165.9	170.6	▲ 0.3	2.9
期末在庫量	95.5	99.2	104.6	5.7	5.5
期末在庫率	26.6%	27.3%	27.7%	1.6	0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 October 2021）

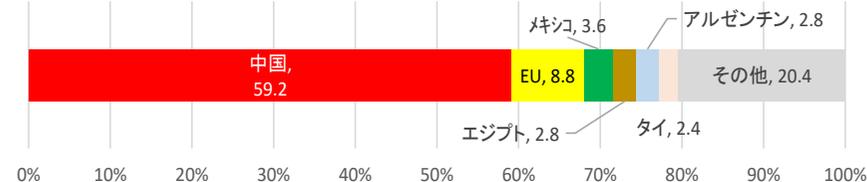
### ○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (385.1 百万トン) (単位：%)



### ○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出量 (173.1 百万トン)



### ○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (170.6 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 収穫面積増、単収上方修正で生産量史上最高、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、アイオワ州、カンザス州、ミネソタ州、ネブラスカ州等での単収の上方修正から、前月予測から2.0百万トン上方修正され、前年度より5.5%増の121.1百万トンと史上最高の見込み。「Crop Progress」(2021.10.18)によれば、収穫期の好天に恵まれ、10月17日現在の主要18州における落葉進捗率は、95%と前年度同期(96%)より遅れているものの、過去5年平均(95%)並みとなっている。収穫進捗率は、60%と前年度同期(73%)より遅れているものの、過去5年平均(55%)より進んでいる。また、最終報告となる10月10日現在の作柄評価は、生育期のコーンベルト北西部の高温乾燥の影響により、良からやや良が59%と前年度同期(63%)を下回っている。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の上方修正と価格低下により搾油用需要が前月予測から0.3百万トン上方修正され、前年度より3.1%増の62.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、期首在庫の減少に伴う供給量の減少及び国内消費の増加に伴い、史上最高の輸出量となった前年度より7.8%減の56.9百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～9月30日)は、22.1百万トンであり、内訳は中国(8.7百万トン)、メキシコ(3.1百万トン)、エジプト(1.5百万トン)、インドネシア(1.5百万トン)、日本(1.4百万トン)の順。なお、8月29日に米国ガルフに上陸したハリケーン・アイダにより一部の穀物輸出施設が被害を受けたが、おおむね復旧しているとみられる。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から3.7百万トン上方修正され、前年度より25.0%増の8.7百万トンの見込み。期末在庫率は7.3%で依然として低水準の見込み。

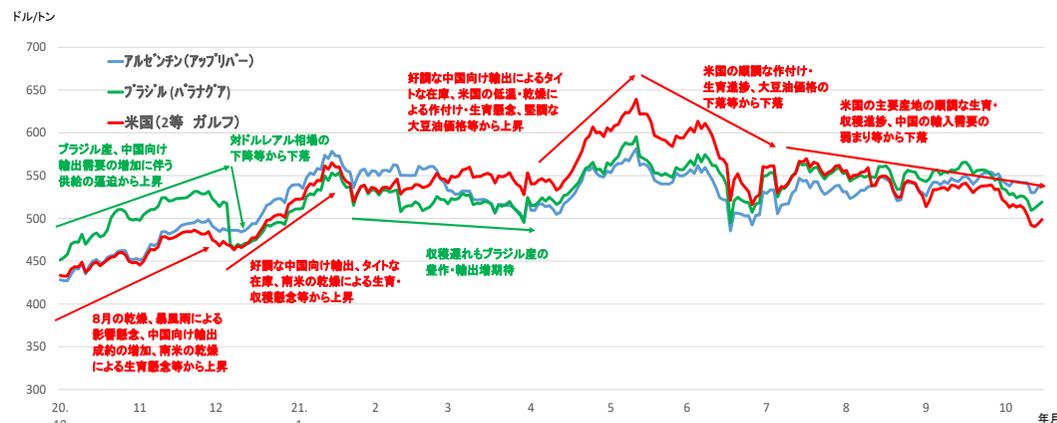
大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	96.7	114.8	121.1	2.0	5.5
消費量	61.9	60.9	62.9	0.3	3.1
うち搾油用	58.9	58.3	59.6	0.3	2.3
輸出量	45.7	61.7	56.9	-	▲ 7.8
輸入量	0.4	0.5	0.4	▲ 0.3	▲ 24.1
期末在庫量	14.3	7.0	8.7	3.7	25.0
期末在庫率	13.3%	5.7%	7.3%	3.1	1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.43	34.98	-	4.6
単収(t/ha)	3.19	3.43	3.46	0.06	0.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

## < ブラジル > 収穫面積増で生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より5.1%増の144.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.10.7)によれば、2021/22年度の実生産量は、前年度より2.5%増の140.8百万トンで史上最高の見込み。

10月上旬から中旬にかけてブラジル中西部・南部の主産地で広く降雨があり、作付け・発芽を促した。最大生産州である中西部のマット・グロッソ州の作付進捗率は10月15日現在45%で、過去5年平均より20ポイント前後進んでいる。南部のパラナ州の作付進捗率は10月18日現在38%。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加から、前年度より1.9%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加と世界的な需要増から前年度より13.9%増の93.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年9月の輸出量は4.8百万トンで、前年同月(4.3百万トン)に比べ13.2%増。2021年1～9月の輸出量は77.5百万トンで、前年同期(78.8百万トン)に比べ1.7%減となっている。内訳は、1位が中国で53.5百万トン、2位がスペインで3.3百万トンとなっている。

### ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2021/22年度の大豆の作付けは、2021年9月以降、順次開始。

2022年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2021/22年度	2021年												2022年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												収穫 28.3(百万t)								
冬とうもろこし	作付 4.4(百万ha)												作付 16.5(百万ha)								
大豆	作付 39.9(百万ha)												収穫 140.8(百万t)								

注: 夏とうもろこしと冬とうもろこしは、2021年9月以降に作付され、2022年2月以降に収穫される。冬とうもろこしは、大豆収穫後の一部圃場で栽培される。

資料: CONAB穀物レポート(2021.10.7)

## 大豆—ブラジル

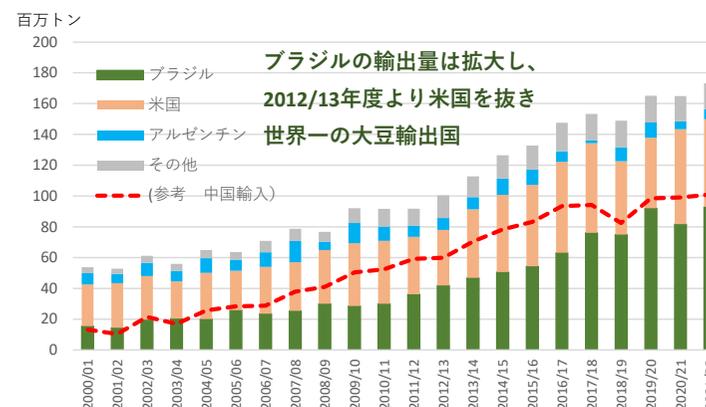
(単位: 百万トン)

年度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	128.5	137.0	144.0 (141.5)	-	5.1
消費量	49.4	49.4	50.4 (48.8)	-	1.9
うち搾油用	46.7	46.8	47.7 (46.2)	-	2.0
輸出量	92.1	81.7	93.0 (92.6)	-	13.9
輸入量	0.6	1.0	0.7 (0.3)	-	▲ 36.3
期末在庫量	20.0	27.0	28.3 (5.4)	0.4	4.8
期末在庫率	14.1%	20.6%	19.7% (3.8%)	0.2	▲ 0.9

(参考)	2019/20	2020/21	2021/22	
収穫面積(百万ha)	36.90	38.60	40.40 (39.90)	-
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.56 (3.55)	-

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図: 世界の大豆輸出の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2021.10.12)のデータをもとに農林水産省にて作成

## < アルゼンチン > 収穫面積増で増産見通しも輸出税継続

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、とうもろこしに比べ大豆の輸出税率が高いなど農家の収益性が劣ることから収穫面積が下方修正され、前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より10.4%増の51.0百万トンの見込み。11月以降に作付けが本格的に開始される。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、パラナ川の水位低下など輸送上の問題の継続を背景に、前月予測から1.0百万トン下方修正されたものの、前年度より5.2%増の49.4百万トンの見込み。なお、2020/21年度の消費量は、9月の降雨によりパラナ川の渇水は多少緩和されたものの、搾油工場からの大豆製品の輸送に遅れが生じ、搾油用需要の下方修正に伴い、前月予測から1.0百万トン下方修正され、47.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より23.3%増の6.4百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021年1～8月の輸出量は4.1百万トンで、前年同期（6.4百万トン）より35.7%減。内訳は、1位が中国279万トン、2位がエジプト60万トンとなっている。引き続き、7月26日に180日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2021年1月以降、輸出税を大豆33%、大豆粕及び大豆油31%に設定し、現在も継続中。

## 大豆ーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	48.8	46.2	51.0 (48.0)	▲ 1.0	10.4
消費量	45.9	47.0	49.4 (47.6)	▲ 1.0	5.2
うち搾油用	38.8	39.7	42.0 (41.3)	▲ 1.0	5.9
輸 出 量	10.0	5.2	6.4 (6.5)	-	23.3
輸 入 量	4.9	5.0	4.7 (4.8)	-	▲ 6.0
期末在庫量	26.7	25.8	25.7 (5.4)	1.1	▲ 0.2
期末在庫率	47.7%	49.4%	46.1% (10.0%)	2.7	▲ 3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.70	16.47	16.90 (16.40)	▲ 0.30	2.6
単収(t/ha)	2.92	2.81	3.02 (2.93)	-	7.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

写真：北部サンタフェ州の大豆作付け前の土壌の準備作業風景  
(11月以降に大豆作付け予定：10月2日撮影)



## < 中国 > 収穫面積減で減産見通し、輸入量は約1億トン

【生産・生育状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.1%減の19.0百万トンの見込み。

中国糧油情報センター（2021.10.8）によれば、9月は東北地区の大部分は晴天と雨天が交互する温暖な天候で登熟・成熟に有利であった。中国中央气象台（2021.10.8）によれば、黒龍江省等東北地区は、10月上旬現在、成熟期から収穫期に入っている。

【需給動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、過去10年間に比べて消費量の増加ペースはペースダウンするものの、前月予測からの変更はなく、前年度より5.5%増の117.7百万トンの見込み。なお、USDA「Oil Crops Outlook」（2021.10.14）によれば、2020/21年度の消費量は、最近起きた東北3省の電力不足・停電の影響により搾油施設の操業に支障が生じ、前月予測から0.9百万トン下方修正され、93.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より2.0%増の101.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～8月の輸入量は67.1百万トンと、前年同期比で3.7%増。内訳は、ブラジル産43.0百万トン（64%）、米国産21.6百万トン（32%）。なお、遅れていたブラジル産大豆の収穫・出荷の進展に伴い、8月の輸入量はブラジル産が9.0百万トンと95%を占めた。今後は、米国の収穫開始に伴い、輸入先が徐々に米国産に切り替わるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報8月号」によると、8月の国内価格（山東省の国産大豆工場渡し価格）は、政府の買付と新穀大豆の品質の低下が供給不足の旧穀大豆価格を支えて、前月（6,060元/トン）からやや上昇し、6,100元/トンで依然高水準である。一方、8月の国際価格（山東省の輸入大豆価格）は4,600元/トンと前月（4,720元/トン）から下落し、内外価格差は拡大した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

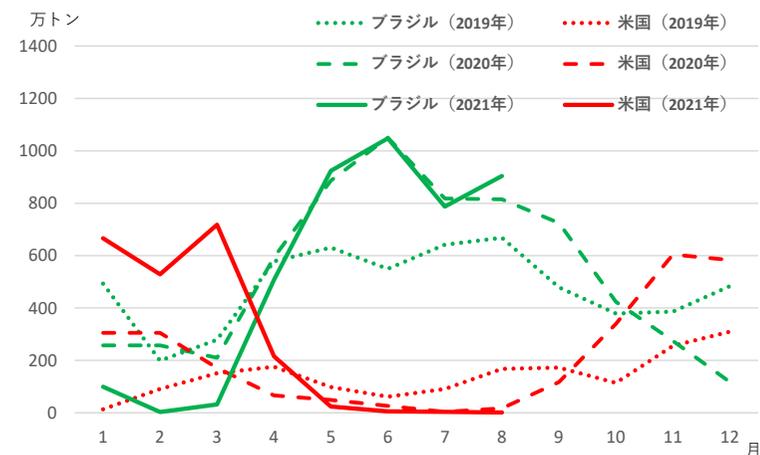
## 大豆—中国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.1	19.6	19.0 (18.7)	-	▲ 3.1
消費量	109.2	111.6	117.7 (120.5)	-	5.5
うち搾油用	91.5	93.0	98.0 (101.5)	-	5.4
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	25.0
輸 入 量	98.5	99.0	101.0 (102.3)	-	2.0
期末在庫量	26.8	33.7	35.9 (34.6)	0.9	6.5
期末在庫率	24.5%	30.2%	30.5% (28.7%)	0.8	0.3
収穫面積(百万ha)	9.30	9.87	9.60 (9.35)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	1.95	1.99	1.98 (1.99)	-	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 October 2021)  
IGC「Grain Market Report」(23 September 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

## ＜ カナダ ＞ 西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、西部カナダでの乾燥の影響による単収の減少に伴い、前年度より7.2%減の5.9百万トンの見込み。

なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2021.10.20)によれば、収穫面積は前年度より4.8%増の一方、単収は西部カナダの乾燥の影響から Manitoba州等で大幅に減少することから、生産量は前年度より7.4%減の5.9百万トンの見込み。

USDA「Weekly Weather and Crop Bulletin」(2021.9.28)によれば、大豆生産面積の約7割を占める東部カナダのオンタリオ州、ケベック州では広範囲で大雨となり、収穫作業が遅れた。一方、西部カナダの平原3州では、温暖で乾燥天候が広がり、収穫作業が進展した。

産地のManitoba州クロープレポート(2021.10.5)によれば、収穫進捗率は89%で、過去5年平均(45%)より大幅に進展している。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より3.2%減の2.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より12.0%減の4.0百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月の輸出量は1.3万トンで、国別では、ノルウェー(1.2万トン)、米国(0.1万トン)の順。

## 大豆ーカナダ

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.1	6.4	5.9 (5.9)	-	▲ 7.2
消費量	2.6	2.5	2.4 (2.3)	-	▲ 3.2
うち搾油用	1.8	1.6	1.7 (1.8)	-	0.5
輸 出 量	3.9	4.5	4.0 (4.0)	-	▲ 12.0
輸 入 量	0.3	0.5	0.5 (0.4)	-	▲ 3.1
期末在庫量	0.6	0.5	0.5 (0.3)	-	0.4
期末在庫率	9.7%	6.9%	7.5% (3.9%)	-	0.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.10 (2.14)	-	2.9
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.81 (2.75)	-	▲ 9.9

資料:USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(12 October 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 October 2021)

写真:西部Manitoba州の大豆収穫中のほ場風景  
(9月29日撮影)



(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)